



①チェーンソーの目立てをする中山さん。「道具を丁寧に扱うことも安全な作業につながると話している」と話す
②伐倒を担当する中山さんは慣れた手つきでどンドン倒していく ③左上から森林技術員の大滝栄市さん、大滝由博さん、佐藤和夫さん。左下から中山作左エ門さん、中嶋社長、大滝学さん



菌床用おが粉事業で業績アップ！ 今後は森林整備に力を入れたい



広葉樹を伐倒する中山作左エ門さん。林業歴30年のベテランだが「広葉樹はスギよりも硬いのでチェーンソーを使うときは気をつけていますね」

取材で訪れたのは村上市朝日中野。この日の現場は以前、観光栗園があった場所で、栗を目当てに山から熊や猿が降りてきて、近くの畑にも被害が拡大。集落からの「何とかしてほしい」との相談で全伐を行った。森林技術員は5名。広葉樹を伐倒する人、枝払いをし、玉切りする人、集積する人と分かれて作業を行っていた。

平成24年に事業拡大をきっかけに株式化した中嶋木材は、木材の価格が不安定な中、ブナやコナラなど広葉樹の乾燥おが粉を自社製造する事業で注目を集めている。きのこ業界では近年、原木栽培よりも菌床栽培が盛んになっていくが福島原発事故以降は主産地である東北地方からの供給が減少。中嶋木材では25年春から菌床培地用のおが粉製造を始め、26年度の生産量は初年の倍以上にも及んだ。

安定需要があるおが粉とともに、今後、中嶋社長が力を入れたいのが森林整備。広葉樹の伐採を促進することでナラ枯れに強い林作りを進め、さらに荒れた山々の間伐など山林の整備による林業の活性化を図る。

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine vol.4

林業事業体レポート ▶

File 03



株式会社中嶋木材

村上市

④チェーンソーで倒した木の枝払いを行う。この材もおが粉に ⑤集材時に大活躍するのがグラブ付きバックホウ ⑥伐採した木を尺棒で計り、決められた長さに切っていく



緑の担い手

「大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち」



大滝 学さん

Ootaki Manabu

[年齢:37歳 林業経験:6年]

新潟県の林業を盛り上げたい

林業の魅力は、きれいに整備した山を眺めたときに「やってよかったな」と思えることです。とても充実感がありますし、もともと新潟県が林業県として全国でも有名になれるように私もがんばって盛り上げていきたいと考えています。今、材の価格なかなか伸びないという厳しい状況が続いていますが、林業は絶対必要な職業であり、やりがいが見出せる仕事だと信じています。



中山 作左工門さん

Nakayama Sakuzemon

[年齢:66歳 林業経験:30年]

常に安全第一を心掛けています

ずっとこの仕事を続けていますが、常に心掛けているのが「安全第一」です。私の仕事は伐倒専門なので、毎日チェーンソーを使います。慣れている作業ですが、一瞬でも気を抜くと危ないので慎重にやっています。林業は好きな仕事ですが、冬、冬の寒い時期や夏の暑いときは嫌になる時もあります。木の素材によって切り方は変えますが、思った方向に倒れるのが何より面白いですね。



事業体Data



株式会社中嶋木材

住所/村上市早稲田1049-1 電話/0254-75-5627
設立/平成24年 資本金/500万円 従業員数/10人
勤務時間/8:00~17:00
主な勤務地/村上市周辺
主な従事業務内容/おが粉製造、森林整備、木材加工ほか

事業主コメント

株式会社中嶋木材 代表取締役 **中嶋睦さん**

収入面ではおが粉が大きな割合を占めていますが、これから力を入れたいのは森林整備です。私たちから声を掛けて山を持っている人たちに積極的にアプローチしていきたいですね。今、うちには30代の若手が3人いるので彼らには林業に関するオールラウンダーになってほしい。人材育成も大きな課題です。



①中嶋木材の敷地内にあるおが粉製造棟。オペレーターなど4人のスタッフが作業に携わる。生産が追いつかないほど注文が殺到し、フル稼働が続いている ②天井近くまでおが粉が積み上げられている ③「良質の材料を使ったおが粉は粒がきれいです」と中嶋さん。きのこの種類によって粒の大きさや樹種を変えている ④「県北は林業も盛んで山が豊かです」。村上産を中心に県内で伐採されたコナラなど、広葉樹を主に使用している

